

日本ビオトープ協会 2017

ビオトープ No. 39

まち
特集「都市の自然環境復元」



タンチョウの飛翔
(北海道阿寒郡鶴居村)
写真 内海 千樫 氏 提供



特定非営利活動法人

日本ビオトープ協会

目 次

巻頭言	頁
野生生物の保護について 笠 文彦	1
特別寄稿	
まち 都市の自然環境復元 ～2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて～ 丸川 珠代	2
シリーズ連載	
ビオトープのいきものたち -その25- 青い宝石・カワセミとビオトープ 神垣 健司	6
会員・BA等投稿	
学校ビオトープを活用したトゲソの保全教育について 樋口 正仁	8
伝統的河川工法でアフガン緑化 -2- 後藤 惠之輔	10
農薬耐性の無い貴重なミズアオイ群・311震災のレガシー -保護保全のための調査(ドローン空撮・大槌町)- 野澤 日出夫	12
協会活動状況	
各地区委員会(8地区)活動 計画・報告等 各地区委員長	13
連載コラム	
「都市の虫たち」 第5回 カメモシ編 立川 周二	16

◇表紙・裏表紙写真の説明◇

本号の表紙写真は、裏表紙写真ともに、幌加内町の内海千樫氏がご自宅のビオトープ、他で撮りためてきた生き物写真の中からご提供頂きました。

・表紙:タンチョウは家族単位で行動する事が多く、写真は前後が親で、中の2羽が幼鳥です。

・裏表紙:キタキツネは雪の下で活動しているネズミを狙ってビオトープにやって来ます。

◇内海千樫氏:北海道 幌加内ビオトープ研究会代表、日本ビオトープ協会会員。1978年より幌加内町在住。現在、北海道ネイチャーマガジン「モーリー」(北海道新聞社)で「アオサギの悲哀」を連載中。動物写真家であり、動植物・昆虫などの写真撮影を通じて、その生態観察は欠かせず長年研究を続けてこられ、ビオトープに地道に取り組んでおられます。



ミズアオイ